市長と語ろう！ほっとおしゃべり会＠和泉地域交流センター　結果概要

日　時　令和８年１０月１９日（月）午後７時～８時
場　所　和泉地域交流センター
参加者　市民　９名

結果概要
１　あいさつ（市長）

２　趣旨説明（事務局）

３　災害時の避難行動と新たな気象情報について説明（市長）
①質疑
参加者：風水害のときは避難所の指定はないが、地震の時は。
市長：地震の時はまず安全なところへ避難し、家が大丈夫であれば帰ってもらい、家が被災しているときは、自分の地域の避難所に避難してほしい。
参加者：８月のレベル５のときの市内の避難者数は何人だったのか。
市長：109 人。これまでは 10 人程度であったが、能登半島の大雨で線状降水帯が発生したことなどで、市民の危機意識が高くなり、避難者が増えたのではないかと思う。
参加者：先日の大雨では、市内全域に避難指示が発令された。地域によって危険度は異なるため、地域の実情に応じて細かく避難指示はできないか。
市長：災害時は、状況に応じて早めに避難情報を発信することが重要である。警戒レベル３は、高齢者など避難に時間がかかる人に避難を促す段階である。レベル４では危険な場所から全員が避難し、レベル５では災害が発生、または切迫している状況となる。
今回の大雨では、山間部の土砂災害の危険性に加え、赤根川や清滝川の水位も急上昇した。河川の水位が基準を超えたことを受け、該当する地域に先行して避難情報を発令した。その後、気象庁から市内全域に関わる警戒レベル５の情報が発表されたため、市内全域に避難指示を発令した。
気象情報の予測精度も向上しているが、災害の発生場所を正確に予測することは難しい。市民の安全を守るため、慎重に判断して情報を発信している。
参加者：先日の大雨で、福井市方面から大野市へ帰ろうとした知人が帰宅できず、福井市が用意したバスで美山の公民館に避難した。避難解除後は元の場所まで送ってもらえず、歩いて戻ったという。
災害時には、旅行者や市外からの通勤者なども避難することが考えられる。避難先での受け入れや、その後の帰宅方法について、他市との連携はできないか。
市長：他市の市民の住所の把握までは困難である。まずは自助、次に共助、その後公

助となる。大雨の際は、道路の冠水や土砂崩れなどの危険があるため、無理に移動しないことが重要である。車も一定の深さまで水に浸かると、走行できなくなる場合がある。災害が予想される場合は、危険な状況になる前に行動することが大切である。

参加者：災害時に福井市内にいたので、福井市のホームページで道路状況などを確認した。大野市のホームページも道路状況など随時発信されているのか？

参加者：国県道は県のサイトでわかる。

市：災害時はホームページに緊急情報のページを設け、道路情報などのリンク集を掲載している。

４　意見交換（フリートーク）

①中部縦貫自動車道全線開通を見据えた地域振興について

参加者：中部縦貫自動車道が全線開通すると、和泉地区に降りる車が減り、地域の観光や商業への影響が懸念される。

現在、地域振興協議会を立ち上げ、地域の事業者や漁協、関係機関などが集まり、地域の活性化について話し合っている。SUP、カヌー、ボートなど、地域資源を生かして、目的地となれば寄ってくれる。また、国道 158 号も〇〇ロードと名前を付けると寄ってくれると思う。市として、和泉地区の観光振興や地域の活性化について、どのように考えているか。

市長：中部縦貫自動車道の全線開通は、和泉地区にとって大きな機会である。目的地として選ばれる場所にならないといけない。

大野市では、越前大野城、九頭竜地域の恐竜化石、道の駅越前おおの荒島の郷、六呂師高原の星空を主な観光資源として位置付けている。和泉地区では、九頭竜湖や恐竜化石などの魅力を生かし、アウトドアや自然体験を楽しめる地域として発信していきたい。

国道 158 号に名前を付けるのはとてもいいアイデアだと思うので、良い名前があったら教えてほしい。

②空き家対策について

参加者：他県から移住してきて空き家を買いたいという人が、地元の金融機関では信用がないためお金が借りることができないと聞いた。市が保証人になるような制度を設けることはできないか。

市長：課題の一つとして受け止めたい。返済についてはリスクもあり、貸し倒れになることが怖い。

③市長が和泉に移住したとしたら

参加者：市長が和泉に住んだとして、やってみたいことなどあれば教えてほしい。

市長：ゆっくり過ごしたい。朝起きて山へ行って、一汗かいて、食材を自ら採ってきてそれで料理をしたい。

④中部縦貫道のサービスエリアについて

参加者：サービスエリアがないので、大野インターで最寄りのコンビニに寄っている。和泉地区にサービスエリアを作ってもらえないか？

参加者：和泉にも道の駅「越前おおの 荒島の郷」のような商業施設などがある道の駅があるといいと思う。野菜や弁当は道の駅九頭竜で販売するなど差別化すればどちらも立ち寄ってくれるのではないか。

市長：コンビニは必要だと思う。中部縦貫自動車道は無料であるので、どこでも降りることができる。道の駅も 24 時間営業ではないし、少しでも安いところに立ち寄る気持ちも分かる。和泉に森のコンビニがあることはありがたい。やりたい人がいればぜひコンビニを開いてもらいたい。

道の駅越前おおの荒島の郷と道の駅九頭竜は、地域の特産品を販売する拠点としても連携している。観光客に地域を巡ってもらい、地元で食事や買い物をしてもらう仕組みも大切である。

⑤女性をターゲットにした施策について

参加者：現在の市役所の男女比率は？

市長：男性６、女性４である

参加者：女性６、男性４にするとよい。男性は女性についてくるので、定住につながると思う。女性が来る施策があるとよいと思う。

市長：若い世代に大野市を選んでもらうには、子育て支援だけでなく、地域で暮らす魅力を高めることも重要である。自然や静かな環境など、大野市ならではのよさを生かし、安心して暮らし続けられる地域づくりを進めたい。

⑥買い物支援について

参加者：第二層協議体で高齢者支援を行っている。社会福祉協議会が月１回買い物ツアーを実施していたが、社会福祉協議会の統合でバスが３台から１台になり、買い物ツアーができなくなったと相談があった。何かいい方法があれば教えていただきたい。

市長：バスの調達は買い物支援担当部署にノウハウなども含め確認してみる。

⑦案内看板について

参加者：九頭竜湖駅などに観光客に目的地までの距離や所要時間を分かりやすく伝える案内看板が少ない。初めて訪れる人にも親切な案内を整えてほしい。

九頭竜湖駅から九頭竜湖までの移動手段がなく、観光客が困らないシステムを作ってほしい。

市長：看板については、以前様々な看板が乱立していたので整理したが、少ないのは申し訳ない。今後は中京方面をメインターゲットとして、看板や案内サインを準備していかなければいけないと考えている。恐竜のモニュメントを設置してほしいという要望もある。設置場所の確保など課題はあるが、和泉地区を含む九頭竜地域の魅力を発信できる方法を引き続き検討したい。

⑧福井ブローウィンズのツアー

参加者：ブローウィンズと連携協定を結んだことで、観戦バスツアーがあったが、今後も

継続されるのか。継続してバスが出るとありがたい。また、市長も一緒に応援に行く機会があるとよい。

市長：ブローウィンズのバスツアーを喜んでいただけたことはありがたい。今度はブローウィンズが大野市に何かしていただけないかと期待している。チームと地域とのつながりを深めていきたい。

5　閉会